

平成29年5月25日
株式会社七十七銀行

77BI（平成29年1～3月期）の調査結果について

株式会社七十七銀行（頭取 氏家 照彦）では、77BI（七十七景気インデックス）の平成29年1～3月期の調査結果をとりまとめましたので、下記のとおりお知らせいたします。

77BIは、県内景気全体の動きを計量化し客観的に把握するため、鉱工業生産指数、消費動向指数、建築物着工床面積、有効求人倍率の4つの景気指標を合成して、当行が独自に作成した指数です。

記

1. 概況

(1) 平成29年1～3月期の77BI（暫定値、平成22年＝100、季節調整値）は、前期比0.4ポイント上昇の106.4と2四半期ぶりに上昇し、遡及可能な平成8年以降では最も高い水準（暫定）となりました。採用指標別にみると、前期に比べ消費動向指数、建築物着工床面積および有効求人倍率が低下しましたが、鉱工業生産指数（暫定値）が上昇しました。

(2) このように77BIは上昇しましたが、これは、年明け以降の個人消費や労働需要の落ち着きに伴う消費動向指数や有効求人倍率の低下が小幅なものにとどまった一方、鉱工業生産指数が外需主導の増産に伴い大幅な上昇となったことによるものです。77BIは、生産の回復や堅調な雇用情勢を反映し、基調としては持ち直しの動きとなっています

2. 採用指標別動向

(1) 鉱工業生産指数

平成29年1～3月期の鉱工業生産指数（暫定値）は、前期比10.2ポイント上昇の114.9となり、三四半期ぶりに上昇しました。これは、スマートフォンや情報記憶装置関連の旺盛な海外需要を背景に、主力の電子部品・デバイス工業や生産用・業務用機械工業で生産を一層増加させたことなどによるものです。鉱工業生産指数は、内需の一部に弱めの動きが残存していますが、好調な外需に牽引されリーマン・ショック以降では最高水準（暫定）となるなど、全体としては持ち直しの動きとなっています。

(2) 消費動向指数

平成29年1～3月期の消費動向指数は、前期比2.9ポイント低下の96.1となり、2四半期連続して低下しました。財・サービス別にみると、レジャーや旅行などのサービス関連は堅調に推移したものの、白物家電などの耐久消費財の動きに一服がみられたほか、食料や光熱などの日用関連が弱含みました。消費動向指数は、年末商戦の反動などから年明けに大きく低下しましたが、年度末にかけて緩やかに上昇しており、基調としては持ち直しに向けた動きとなっています。

(3) 建築物着工床面積

平成29年1～3月期の建築物着工床面積は、前期比38.7ポイント低下の125.9となり、2四半期ぶりに低下しました。建築物着工床面積は、大型物件の着工が相次いだ前期と比べて水準としては低下していますが、引続き建築規模の大きな病院や物流倉庫、介護施設などが仙台圏を中心にみられています。建築物着工床面積は、振れを伴いながら概ね横ばい圏内で推移しています。

(4) 有効求人倍率

平成29年1～3月期の有効求人倍率は、前期比3.8ポイント低下の342.2となり、7四半期ぶりに低下しました。これは、年末の繁忙に向けて逼迫していた労働需要が落ち着き、新規求人がやや減少したことなどによるものです。有効求人倍率は低下したものの、建設業、製造業、医療・福祉、サービス業など幅広い業種で人手不足が慢性化している一方、就職者は減少の一途を辿るなど、構造的な労働需給動向を反映して、過去最高水準圏内で推移しています。

以 上

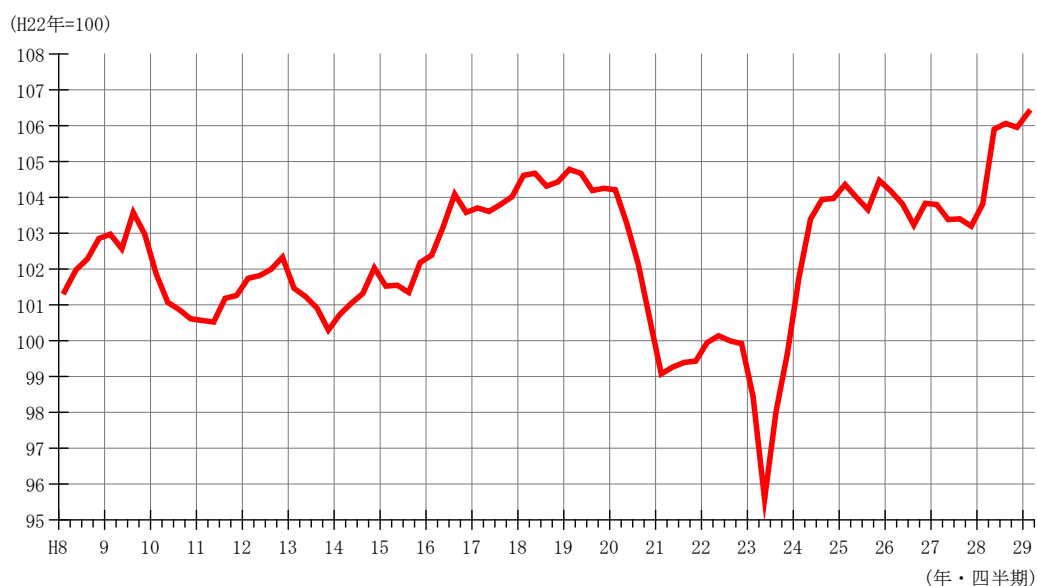
<本件に関するお問い合わせ先>

七十七銀行 地域開発部 調査課 田口

電話 022-267-1111 内線 2551～2553

(参 考)

図表1 77B Iの推移



図表2 77B I推移表

(平成22年 = 100)

	77B I	(参 考)			
		鉱工業生産指数	消費動向指数	建築物着工床面積	有効求人倍率
26年度	103.7	92.1	99.5	157.5	287.2
27年度	103.4	90.4	93.2	132.8	304.5
28年度	106.1	110.9	98.5	136.0	336.8
25. 4~6	104.0	94.2	103.6	193.2	283.7
7~9	103.7	90.9	101.1	214.8	280.7
10~12	104.5	97.2	101.4	267.2	288.2
26. 1~3	104.2	97.4	101.1	117.1	287.4
4~6	103.8	97.9	98.4	160.0	282.2
7~9	103.2	88.9	100.5	114.7	279.2
10~12	103.8	89.1	101.3	239.2	289.7
27. 1~3	103.8	92.4	97.8	116.0	297.9
4~6	103.4	92.5	95.4	146.4	291.2
7~9	103.4	89.8	93.1	114.7	306.9
10~12	103.2	87.4	90.7	139.9	308.4
28. 1~3	103.8	92.1	93.5	130.4	311.4
4~6	105.9	112.3	99.2	150.7	325.7
7~9	106.1	111.7	99.6	102.9	333.2
10~12	106.0	104.7	99.0	164.6	346.0
29. 1~3	106.4	114.9	96.1	125.9	342.2

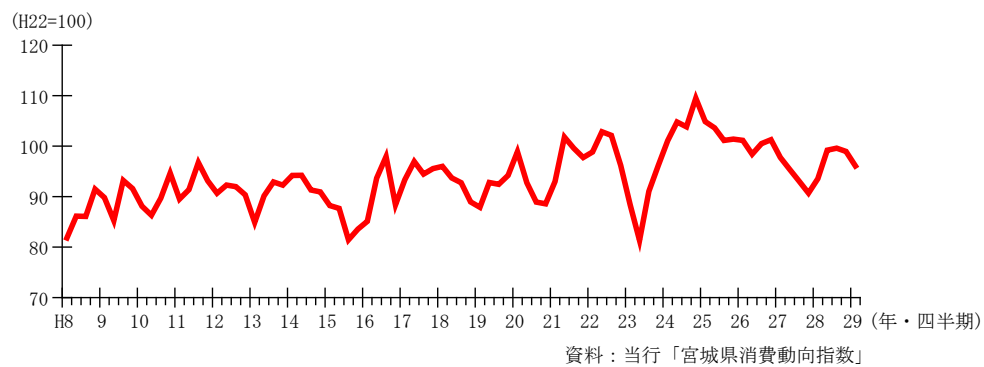
注) 鉱工業生産指数の平成29年1~3月の数値は平成29年3月の数値を前月と同値と仮定して算定した暫定値。

資料: 宮城県、国土交通省、宮城労働局

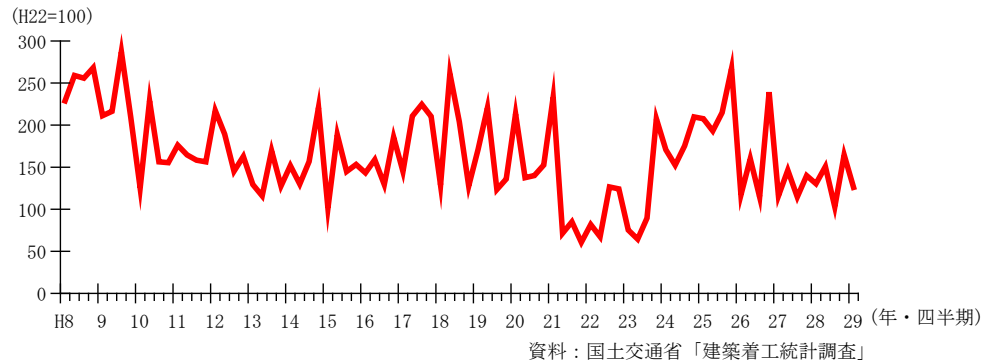
図表3 鉱工業生産指数



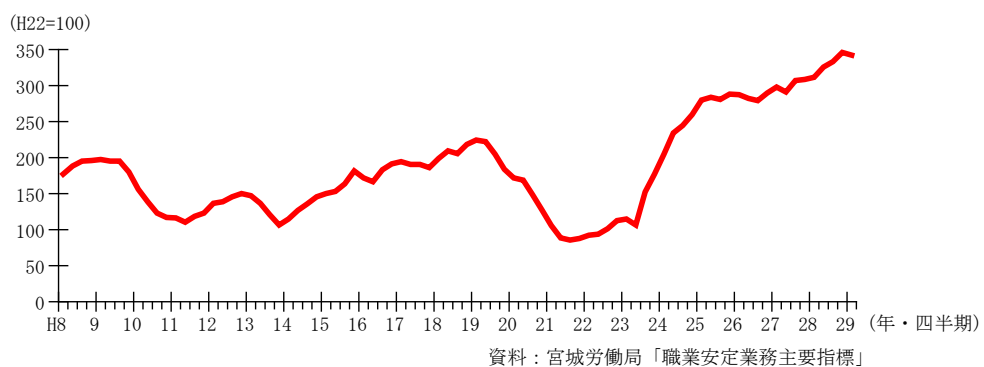
図表4 消費動向指数



図表5 建築物着工床面積（民間非住宅）



図表6 有効求人倍率



図表7 77B I 長期的推移表

(平成22年=100)

年	四半期	77B I
18年	I	104.6
	II	104.7
	III	104.3
	IV	104.4
19年	I	104.8
	II	104.7
	III	104.2
	IV	104.3
20年	I	104.2
	II	103.3
	III	102.1
	IV	100.6
21年	I	99.1
	II	99.3
	III	99.4
	IV	99.4
22年	I	99.9
	II	100.1
	III	100.0
	IV	99.9
23年	I	98.4
	II	95.6
	III	98.0
	IV	99.7
24年	I	101.8
	II	103.4
	III	103.9
	IV	104.0
25年	I	104.4
	II	104.0
	III	103.7
	IV	104.5
26年	I	104.2
	II	103.8
	III	103.2
	IV	103.8
27年	I	103.8
	II	103.4
	III	103.4
	IV	103.2
28年	I	103.8
	II	105.9
	III	106.1
	IV	106.0
29年	I	106.4